

講義名：教養教育特別講義－文化財保護論 01<春> 曜日1：月2 担当教員名：井上 敏	ナンバリングコード：LBAT1000 曜日2：
研究室：聖アンデレ館8階822号室 オフィスアワー：事前にメールで連絡をして調整してください。基本的に月曜、水曜、木曜となります。	メールアドレス：s-inoue@andrew.ac.jp

授業形態
『講義』

講義・演習概要
本講義では文化財保護を通して現代社会において起きている様々な問題について、その解決には色々な難しさがあることを学んでもらう予定です。文化財や博物館に興味がない人でもこれから出ていく社会では解決方法が一つではない、答えが出るかどうか分からない、といった問題について考えることは色々役に立ちます。この講義は受講生の皆さんに「考える」ということの第一歩になるようにしたいと考えています。勿論、博物館学芸員課程の受講生の方にとっては学芸員課程の諸科目を補完する科目になるので、積極的に受講してください。

学習(到達)目標
この講義の学習目標はまず講義の内容をしっかりと理解すること。特に文化財については高校までに習ってきた世界史や日本史の知識を文化財と関連させて理解してもらうこと。次に文化財を守るということは非常に大事なことだが、それを行っていくためにはいかに難しい問題があるか、を理解してもらった上で、自分は文化財保護に関してどのように考えるのか、自分なりの意見を構築してもらうことを目標とします。

講義・演習計画	
【第1回】 ガイダンス(講義の概要、成績評価等について)	
【第2回】 震災遺構をどう残すか？－文化財を守るの意味	
【第3回】 日本の文化財保護制度(1)－廃仏毀釈と日本の宗教の考え方	
【第4回】 日本の文化財保護制度(2)－日本の文化財保護制度の概要と問題点	
【第5回】 日本の文化財保護制度(3)－埋蔵文化財の保護制度(1)	
【第6回】 日本の文化財保護制度(4)－埋蔵文化財の保護制度(2)	
【第7回】 日本の文化財保護制度(5)－天皇陵と古墳	
【第8回】 日本の文化財保護制度(6)－無形文化財の保護	
【第9回】 古代ローマとキリスト教－宗教と文化財の「価値観」	
【第10回】 ナショナルトラストとエコミュージアム－ヨーロッパにおける仕組み	
【第11回】 文化財を守る国際条約と国際機関	
【第12回】 世界遺産条約(1)－条約の仕組みと問題点	
【第13回】 世界遺産条約(2)－オーセンシティティと多様な価値	
【第14回】 ユネスコ条約と国境を超える不法取得文化財	
【第15回】 まとめ	

成績評価の方法					
試験		レポート	70%	その他	30%
コメント	①遠隔授業の場合、M-portでの講義の中で小課題3回(各10点)を課し、メール等での提出とします。対面授業の場合、今後の授業運用に向けて学生の進捗状況や理解度を把握する目的でコメント欄を設けた出席カードの提出を3回求めます。理解度やこの内容に応じた点数を30点とします。(30パーセント)②最終レポートは第15回の講義終了後にメール等で提出とします(70%)。①と②を合わせて100%(100点満点)で評価します。				

テキスト			
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	

参考文献
講義では資料を配布します。必要な参考文献は講義内で指示します。

事前および事後学習の指示 (事前学習 30 時間・事後学習 30 時間)
最近とはみに文化財に関する報道が増えています。そういった新聞やテレビのニュースをこまめに見て、問題意識を高めておいてください。

その他備考(担当教員用)

キーワード
文化財保護 埋蔵文化財 世界遺産 文化財の国際条約

備考(管理者用)
(旧:共通教養特別講義－文化財保護論)02～19生読替